



五頭のさなだ虫

彌彦

むかしある田舎に大層な素封家がありました。その主人を金藏と申しましてまだ今年僅かに二十才の若者でした。然し自分の家が金満家なのでたのんで學校にも行かず仕事もせず毎日くくブラくくとわそんでばかりをりました。金藏の仕事は煙草を呑むと自分の家の二階からボンヤリ往來をながめているとこの外にはありませんでした。朝は寢坊をしますのでいつでもあさ飯と晝飯とは一所です。晝飯をたべましたあとでも退屈のあまりいろくの御菓子やら果物やらをシツキリなしにはらばつていますやがて夕方になりますとまた

晚餐をそれはく大そうな御馳走でたべます。い
つおひるがすんでいつ晩飯がはじまつたのか別ら
ないなど、召使の下男下女などに影口をいはれま
しても金藏は平氣で少しもあらためる氣色も御座
いませんでした。

かいしい物ばかり食べまして少しも運動をしない
金藏はダン／＼と肥へてまるで御腹などは米俵の
ようにエゴ／＼となつてしまいました。

従つて氣分もあまりすぐれませぬ。そこであちら
の醫者こちらの醫者と方々の名のある御醫者様を
よびまして診て貰いました。そして水薬やなにか
まるであびる様にのみました。素よりどこが悪い
と云ふのはありません。尤も金藏自身は四百四
病を皆わづらつている様な氣がしたでしょうが、
たゞ不養生で御醫者様の云ふとは一つもさへませ
んののでいつ迄たつてもよくなる様子も見えませぬ
でした。

或日のを金藏の御友達が参りました時金藏はブク

くした御腹をさすりながらしきりと自分の不健
康をなげきました。そこで友達の云ふには『私はこ
から三拾里程へだつた一つの村に大そう上手
な御醫者がいると聞き及びましたからその人に診
て御貰になつては如何です。軽い頭痛などはその御
醫者様の顔を見たいけで全快してしまおうです
これをさへました金藏は大喜びによるこびまして
早速その御醫者に來るよう手紙を送りました。
金藏の手紙を見ました御醫者は、金藏が何病で
あるかを悟りました。それは不攝生と云ふ病氣でし
た。そこでこの上手な御醫者は次のような返事を
出しました。『あなたの御病氣は大變に性質がよろ
しくありません。打すて、をけば一命に關はります
明朝すぐ私の宅に向つて御出發なさい。實はわか
たの御腹の中には五頭のさなだむしがいます。そ
れですからあなたは私の宅迄幾日か、つてもよろ
しいからユツクリと徒歩していらつしやいもし途
中馬や車にのればあなたの御腹の内の虫はすぐあ

なたの九腸を寸断してしましますそれからあなた
は三度の食事以外に何物をもめし上つてはいけま
せんもし何か上ればそれは皆虫がたべてしまいま
すそしてドシ〜と大きくなります」

この手紙を見ました金藏は翌朝はやく御醫者様の
云ふとほりテク〜とあるいて家を出ました。

毎日〜ゴロ〜となまけくせのついでに金
藏にはテク〜と徒歩するのが物うく覺えられま
したのでその日は二三里で旅館にとまつてしま
しました。翌日目がさめますと大層気分がよい様
ですから又元氣をだしてテク〜あるき出しました
その日は始めの日よりもすうつとたくさんあるけ
ました。偕その翌日にはもう病氣の様な氣色は少
しも御座いません。かように致しましてこの御醫
者様の所に金藏が参りました時にはもうどこも悪
い心地がしませんでしたのでたゞあつく御禮をの
べて又あるいて歸宅致しました。
金藏は運動が何より身体の健康に益があると云ふ

とを悟り又間食がなによりのだとくであるといふ
を感じました。その後金藏は至極壯健に長命い
たしましたとさ。めでたし〜

太郎と犬

硯山人

或處に太郎と云ふ子供がありました。或る冬の土
曜日、今しも學校から歸つて來た所で、お椽側へ
本の包みを投げ出して「お母様只今！」もそこ
〜にすませて何時もなら何か頂戴！と云ふ所を
今日は何うしたのか何とも云はないで裏庭の物置
へと入り込みました。何をするかと思つたら、
太郎は頓がて物置の柵から金鎚やら、釘やらを取
り出し、そして板片を四五枚集めて、何か頻りに
打ちつけて居りました。あまりトン〜ガタ〜
ゴリ〜と喧ましく音をさせたのでお母様はお氣
付になりました。